

3 学期始業式式辞

(式辞前に、能登半島地震で被害にあわれた方々に黙とう)

皆さん、新しい年が始まりましたね。元気に冬休みを過ごすことができましたか。終業式のときに私が出した宿題(1月9日に宿題を全部やって出すこと)はできそうですか。みんないい顔をしてここに集まってきたので大丈夫そうですね。



さて、今日は冬休みの間に加計小学校の校庭で見つけたこの花からお話を始めましょう。この花の名前がわかりますか。そう「タンポポ」ですね。でも実は名前はちょっとちがうのです。この写真を見てください。どちらもタンポポですが、「セイヨウタンポポ」「ニホンタンポポ」という違う種類なのだそうです。

パッと見ただけでは区別が付きませんが、よく見ると違いがあって、見分けられるそうです。あとから、もう一度このお花に戻ってきますね。それでは、始業式にあたってこの本を書いた人

を紹介しましょう。牧野富太郎博士です。昨年ドラマで話題になりましたね。

牧野富太郎

- ・1862年(江戸時代の終わりごろ)、高知県で生まれる
- ・佐川町:山と川に囲まれた自然が豊かな土地で少年期を過ごす
- ・小さいころから植物が大好き
- ・身のまわりの植物を観察したり、本で名前を調べたり、植物の絵をまねて描いたりして、自分で学んでいった。
- ・日本中の植物を見つけ、名前をつけ、植物図鑑をつくらうと一生をかけて取り組んだ。

牧野博士は安芸太田町と同じように山と川に囲まれた自然が豊かな町で育ちました。小さい頃から植物が大好きで、身の回りの植物を観察したり、本で調べたり、絵に描いたりしたそうです。日本中の植物を調べて、名前を付け、植物図鑑をつくらうと一生かけて取り組まれました。その

成果が先ほど見せた「牧野日本植物図鑑」です。この写真にあるように、牧野博士は日本中の山野を歩きまわり、たくさんの植物を標本にしました。新聞紙に包んで持ち帰った標本は部屋中に積み上げてあったそうです。こうして、標本にした植物は50万点にもなり、1500種に名前を付けました。植物画は1700点も残っています。新種もたくさん見つけられました。広島、山県郡にも来られたことがあります。芸北の八幡高原で「カキツバタ」を見つけた話は有名です。もちろん、こんな大きなことを一人で成し遂げたわけではありません。全国にいる多くの仲間とともに一生をかけ植物に向き合

う人生を送られました。

勉強の心得(雑糧一撻)

- ①がまんすること
- ②正確であること
- ③たくさん知識
- ④たくさん本を讀むこと
- ⑤人に伝えるための技術を身につけること
- ⑥わからないことは先生に聞くこと
- ⑦しんどいことから逃げないこと
- ⑧多くの人と出会う友達になること

セイヨウタンポポ!

セイヨウタンポポとニホタンポポの見分け方



牧野博士の写真

自然は、わたしたちにとってえがたい教師(先生)です。

ただ、ほんやりながめては何もえるものではありませんが、**学ぼうという気持ちさえもっていたら、**自然はじつにいろいろなことをわたしたちに教えてくれます。

(牧野博士のこぼ)

小さいことまで、よく見よう
くらべて、ちがいをみつけよう

気づいて考えて
やってみる!

自分を大切に
人を大切に力を合わせて

この牧野博士が、勉強(研究)をすすめるための心得というものを残しています。全部で15条にわたっていますので、皆さんにも関係がありそうなものにしばって、言葉を簡単にして紹介します。植物の研究だけでなく、私たちが勉強をする上でも大事なことだと思います。

さて、最初のタンポポに戻しましょう。2つの種類のタンポポもよく調べると違いがあります。見分け方としては、花の下の付け根の部分をよく見るとわかるそうです。図と写真を比べてみてください。学校に咲いていたこのタンポポは・・・?そう「セイヨウタンポポ」ということになりますね。このように細かいところをよく見て、比べて違いがわかると、もっと詳しいことがわかりますね。最後に牧野博士の言葉を紹介します。

これからの勉強でも「小さいことまでよく見よう。くらべてちがいをみつけよう。」この2つを心においてがんばってみましょう。理科だけでなく、普段皆さんが勉強しているどの場面でも使えることだと思います。締めくくりの3学期です。みなさんのがんばりに期待しています。



加計小オーケストラ♪

大人も子どももまるごとハッピーな1年のしめくりにしよう!

令和6年1月9日
加計小学校長 萩原英子